

II. 神奈川県外の実成、湖成、イベント記録堆積物

(8) 2011年霧島山(新燃岳)噴火堆積物 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 66

標本名 2011年霧島山(新燃岳)噴火堆積物 露頭剥ぎ取り標本

大きさ

KPM-NP 66-1: 幅 0.11 m, 高さ 0.17 m

KPM-NP 66-2: 幅 0.15 m, 高さ 0.17 m

重量 0.2 kg (ハレパネ付き)

形状・展示・収納状況 薄い絨毯状、ハレパネに貼った状態で移動棚に収蔵

採集地 宮崎県都城市御池町

緯度・経度

KPM-NP 66-1: N31°52'19", E130°57'08"

KPM-NP 66-2: N31°51'51", E130°56'54"

標高 NP 66-1: 450 m, NP 66-2: 520 m

露頭の種別と現状 トレンチの人工露頭、埋め戻し消失
露頭面の向き、傾斜 おおむね E-W, ほぼ垂直(KPM-NP 66-1,2 とともに)

走向・傾斜 ほぼ水平

堆積物の種別 降下テフラ(陸成層)

年代 2011年(新燃岳 2011年噴火テフラ)

採集作業者 笠間友博

採集日 2011年2月23日

関連文献等 西来邦章・及川輝樹・古川竜太・大石雅之・中野俊・宮城磯治(2013) 霧島火山新燃岳 2011年3月~2012年2月の降灰量調査: 即時的降灰量推定の予察的検討. 火山, 58(2): 353-363.

解説 標本は、2011年霧島山(新燃岳)噴火の1月26~27日噴火降下堆積物の現地調査(科研費「地球システム相互作用の理解に基づく地球史学習プログラムの構築(研究代表者: 平田大二)」の助成を受けた)で採取した。この調査は2011年2月23~24日に行い、剥ぎ取りは2月23日に許可を得て国道223号線(霧島バードライン)に入り行った。噴火後、調査日までに何度か降水があり、採取当日も雨であったが、堆積物はこの時点でほとんど流されてはなかった。ただし、テフラに覆われた草の成長に伴って、表面にクラックが入っている場所があった。堆積物は、降下軽石とそれを覆う降下火山灰よりなる。軽石は26日夕方~27日朝にかけて堆積

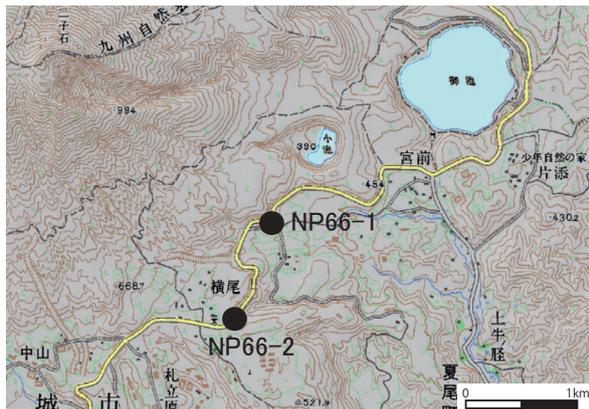


図 II-8-1. 採集地点(国土地理院発行の数値地図 50,000(地図画像)「熊本・宮崎」を使用)。

し、火山灰層はその後の堆積物である。軽石は現地で霧島おろしと呼ばれる北西季節風に流され南東方向に分布する。剥ぎ取り採取地点も新燃岳の南東方向である。KPM-NP 66-1(相対的に薄く、粗粒)は宮崎県畜産公社入口付近、KPM-NP 66-2(相対的に厚く、細粒)は都城市立御池小学校付近で採取した。標本は布を裏打ち材とし、接着剤は G17 スプレー(コニシ(株))を用いた。

記録者 笠間友博



図 II-8-2. 露頭の様子(上: KPM-NP 66-1, 下: KPM-NP 66-2)。

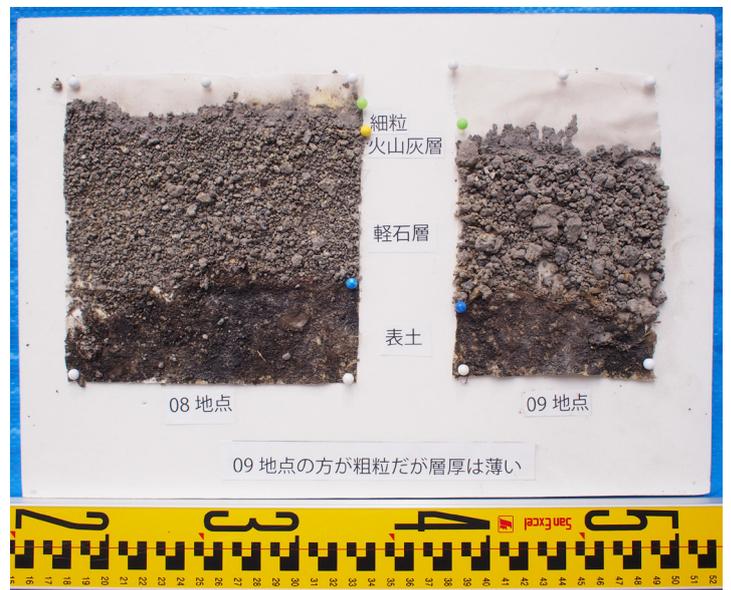


図 II-8-3. 標本の写真(右: KPM-NP 66-1, 左: KPM-NP 66-2)。